

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	おおくぼ保育園
施設所在地	日野市大坂上4丁目10番地2号
自治体名	日野市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「自然（落ち葉）」

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

園庭には、柿木・あんずの木等、季節の変化を感じられる樹が植えてあり、日頃から目にしたり、触ったりできる環境である。また、園周辺は自然豊かな公園が多く散歩に出かけることも多い。その体験の中で、自然を体で感じたり、触れたりして季節の変化を感じながら、友だちとの会話から遊びが広がる姿が見られる。

2. 活動スケジュール

11月から12月にかけて、4歳児5歳児が散歩をしながら実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

【環境設定】

机を用意して子たちが自由に落ち葉を観察できるようにする。

5人くらいのグループに分かれて観察する。

【準備した道具】

テーブル

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

クラスごとに、散歩に出かける。

公園を散策しながら、思い思いの落ち葉を拾い集めてくる。

戻ってきて、自分の落ち葉の入りや形を友達と見合う。

4～5人ごとのグループに分かれ、テーブルに並べる。

自分の思ったことを言葉にしてみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）「散歩楽しかったね。落ち葉いっぱい集まったね」担任が話始めると、子どもたちから「黄色だよ」「赤だよ」「穴が空いてる」「ツルツルしてるよ」「ねー並べて見よう」と一人の子どもがいうとテーブルに並べだした。そして、子どもたちから色別に並べだし、気付いたことをつぶやくように声にしていた。自然の彩に気づき5歳児は、紙に張って大きな樹を作っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

何も言わなくとも、子供たちから色別に並べだしたり、大きさ順に並べたりと、気付いた事を言葉にしていた。

子供の自然な気づきを言葉に出して話すことが出来ていた。自主的な発言が多く、こちらから与えることなく話が盛り上がっていた。

「また落ち葉集めしたい。」「今度は違う公園いこう」などの発言や園庭の落ち葉も拾ったりと自発的に自然に目が向けられていた。何気ない身近な自然からいろいろな気づきがあることを、続けて行うことで自然の大切さを体感し共有する楽しさの中から自主性が芽生えと感じるプログラムであった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	おおくぼ保育園
施設所在地	日野市大坂上4丁目10番地2号
自治体名	日野市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「自然（木の実）」

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

園庭には、柿木・あんずの木等、季節の変化を感じられる樹が植えてあり、日頃から目にしたり、触ったりできる環境である。また、園周辺は自然豊かな公園が多く散歩に出かけることも多い。その体験の中で、自然を体で感じたり、触れたりして季節の変化を感じながら、友だちとの会話から遊びが広がる姿が見られる。

2. 活動スケジュール

11月から12月にかけて、3歳児が散歩をしながら実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

【環境設定】

机を用意して子たちが自由にどんぐりを観察できるようにする。

砂場でどんぐりのケーキを作って友だちと遊ぶ。

【準備した道具】

テーブル・砂場道具

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

クラスごとに、散歩に出かける。

公園を散策しながら、思い思いのどんぐりを拾い集めてくる。

戻ってきて、自分のどんぐりの形を友達と見合う。

4～5人ごとのグループに分かれ、砂場で遊ぶ。

自分の思ったことを言葉にしてみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「散歩楽しかったね。どんぐりいっぱい集まったね」など、担任が話始めると、子どもたちから「おおきいよ」「たくさんあつめたよ」「穴が空いてる」「ツルツルしてるよ」「ケーキつくろう」と自分で気づいたことを自発的に担任やほかの子に共有し、砂場の遊具で作り始めた。子どもたちから大きさ別に並べだしたり、気付いたことをつぶやく姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

声掛けをしなくても子供たちから形別に並べだしたり、大きさ順に並べたりと、気付いた事を言葉にしていた。

子供の自然な気づきを言葉に出して話すことが出来ていた。自主的な発言が多く、子ども達同志で話が盛り上がっていた。

「また、どんぐり集めしたい。」「今度は違う公園いこう」園庭の落ち葉も拾ったり、自発的に自然に目が向けられていた。何気ない身近な自然からいろいろな気づきがあることを学べ、繰り返す行うことで自然の大切さを体感し共有する楽しさの中から自主性が芽生えると感じるプログラムであった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	おおくぼ保育園
施設所在地	日野市大坂上4丁目10番地2号
自治体名	日野市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「でこぼこ」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日頃から体を動かすことが大好きな子どもたちは、自分で自由に移動できるようになり、「走りたい」「もっと遊びたい」という思いが身振りや手振りからも伝わってくる。園庭で楽しそうに走り回る姿を踏まえ、室内でも十分に体を動かして遊べるよう、高さや形、感触の異なるバランス遊具を取り入れることで、平らな床とは異なる凸凹や素材の違いを全身で感じながら、バランス感覚や運動機能を育み、体を動かす楽しさをより一層味わうことができると考えたため。

2. 活動スケジュール

12月から3月にかけて、1歳児2歳児が室内で遊んだ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【環境設定】

凸凹の地面を再現できるように遊具を設定した。

クラスに分かれて遊ぶ

【準備した道具】

なかよしレール平均台・リバーランドスケープセット等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

室内に、子どもたちが興味を持てるような遊具を設定し、遊びたい気持ちが持てるように設定する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)「これんだろう」「楽しそうだね」と声掛けし、自分からやってみたい子どもから保育者が手を添えたりなど補助しながら探究活動を行った。じっくりチャレンジできるよう子ども一人ひとりに寄り添いながら活動を行った。気持ちが乗るまで見ている子どももいたが、自分から大切に一緒に遊んでいった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

少人数で参加することで、友だちを応援する姿や、落ちてしまった友だちを見て自分のことのように「あー」と声をあげる姿が見られ、子どもたちが活動を楽しんでいる様子が伝わってきた。担任同士で配置を工夫しながら進めていくと、子どもたちが楽しそうに参加する姿がより多く見られるようになった。はじめは見ているだけだった子どもも、友だちの姿を見て「やってみよう」と立ち上がったたり、にこにこ何度も挑戦したりする姿が見られたことから、自分から「やってみよう」という気持ちを大切にできる活動であることに気付いた。